

.....
本会記事
.....**2024年度「粉末冶金講座」開講と
「粉体および粉末冶金」の投稿についてのお知らせ****2024年度「粉末冶金講座」開講**

2024年度の粉末冶金講座開講が決まりました。まずは「粉末冶金入門講座」を6月、7月で開催し、「粉末冶金基礎講座」、「粉末冶金実用講座」を12月に開催します。

「粉末冶金入門講座」は、昨年同様1~4の4回、オンラインのみで、1講座2コマずつの講義を行います。また、講座開催翌週の月曜日から金曜日の5日間、オンデマンド動画を配信します。昨年の受講者から、ライブでの講義中に理解が出来なかったところを復習するために利用した、また、当日急用が入り、ライブでの講義が聴講できなかったが、オンデマンド動画で聴講ができたので良かったなどの感想を頂き、オンデマンド動画配信を今年度も継続することにしました。

「粉末冶金入門講座」は、＜教科書のようなやさしい内容：粉末冶金に初めて接するような方にも分かり易い内容＞で講義して頂くようにしています。受講者は、研究や製造に携わる方が多いですが、品質保証、品質管理、営業に携わる方も聴講頂いております。初めて「粉末冶金」というものに携わる方には、オンデマンド動画を利用頂き、再度講義内容を復習、確認することに役立てて頂きたいと思っております。

「粉末冶金基礎講座」、「粉末冶金実用講座」はハイブリッド形式で開催しますので、京都経済センターでの現地参加、またはオンライン参加のいずれかを選択頂くことができます。参加申込の際に参加方法を選択頂きますが、変更は可能です。その際は事務局にお申出ください。両講座をハイブリッド形式で開催する理由は、入門講座に比べ、質問内容が受講者の業務に係るより実践的な内容に関するものが多く、現地参加で直接講師の方に質問をしたいという声があるためです。現地会場では、講義後に講師の方の前に質問者の列が出ることもあり、参加者の熱意が感じられます。

「粉末冶金基礎講座」、「粉末冶金実用講座」は、「粉末冶金入門講座」開催から5か月後に開催します。「粉末冶金入門講座」で得た知識を、日頃の業務の中で実践、熟考頂き、入門講座からさらに具体的な内容の「粉末冶金基礎講座」で知識を深めて頂き、続けて「粉末冶金実用講座」では基礎講座以外の材料について企業の方からの解説や金属積層造形技術についての解説を聞いて頂きたいと思っております。

また、今年度から粉末冶金講座について、下記の新たな取り組みをすることとなりました。

1) 理解度確認問題の提供

各講座終了後に理解度を確認して頂く簡単な問題を提供します。ご自身の理解度の確認ですので、テキストやメモを見て解答頂いて結構です。また、解答は任意ですが、アンケートの回答と理解度確認問題への解答の両方をお送り頂いた方に受講修了証をお送りします。

2) 2025年度春秋大会へ参加費免除

2024年度粉末冶金講座に参加された方は、2025年度開催の当会主催の春秋大会の春または秋のいずれか1つに参加費免除でご参加頂けます。春秋大会ではどのような講演が行われているかを知って頂き、また、人的交流や人脈形成の場として利用頂きたいと思っております。

粉末冶金講座への参加をきっかけに、今後も当会の活動にご参加頂きたいと思っております。詳細は本誌案内をご覧ください、多くのご参加をお待ちしています。

「粉体および粉末冶金」の投稿について

「粉体および粉末冶金」のJ-STAGEは、2022年10月からCCライセンス（CC BY-NC-ND）のもとでオープンアクセスとなり、2023年10月より投稿論文をまずJ-STAGE上で早期公開を行い、その後冊子体に掲載することとなりました。

この度、J-STAGEに掲載される図の色調は、著者が投稿時提出してきた図のまま、カラーはカラー、グレースケールはグレースケールでオンラインに掲載し、冊子体は原則として、グレースケールのみで掲載することとなりました。冊子体で不明瞭な図はオンラインでご確認ください。

また、J-STAGEで電子付録（Supplementary Information）を利用頂けるようになりました。電子付録はあくまで補足資料であり、論文は本文で完結していることが前提となります。付録は、本文同様査読を行います。数式の導出の過程や実験装置の詳細、個々の細かなデータなど、本文に挿入すると論旨が不明瞭になる場合、付録を設けてよいことになりました。必要に応じご利用ください。

(井上羊子)